

底魚資源調査（冬季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、H15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回は令和4年12月～令和5年2月に実施した冬季調査結果についてお知らせします。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

H24年度から今年度までの推定現存量の推移を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準も記しました。

漁獲対象種の増減傾向を直近5年間の推移から判定した結果、増加傾向にあるのはヤナギムシガレイ、アオメエソ（めひかり）、アカムツの3種、横ばい傾向にあるのはヒラメ、ババガレイ（なめた）、ユメカサゴ（のどぐろ）など7種、減少傾向にあるのはマコガレイ（本まこ）、マダラ、キチジ（あかじ）など7種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は増加傾向、テナガダラ（とうじん）は横ばい傾向でした。

表 推定現存量の推移（冬季トロール調査）

魚種/年度		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	傾向	水準※1	過去10年平均※2
漁獲対象種	ヒラメ	365	448	389	466	310	261	221	247	181	156	182	横ばい	中位	304
	ヤナギムシガレイ	35	51	30	48	46	37	52	57	32	65	60	増加	中位	45
	ババガレイ(なめた)	101	80	33	73	25	32	39	10	20	16	21	横ばい	高位	43
	アカガレイ(赤がれい)	221	314	84	96	94	66	73	51	85	25	9	減少	—	111
	マコガレイ(本まこ)	45	11	5	6	46	26	25	31	3	6	6	減少	低位	20
	マガレイ(沖まこ)	62	75	26	13	13	5	6	8	0	0	0	減少	低位	21
	ムシガレイ	89	89	181	162	248	187	416	324	327	406	372	横ばい	高位	243
	ミギガレイ(にくもち)	20	43	26	36	26	56	24	52	41	17	43	横ばい	—	34
	ヤナギダコ(水だこ)	172	202	119	35	105	122	104	74	102	88	52	減少	低位	112
	アオメエソ(めひかり)	69	24	6	25	14	173	30	28	7	370	38	増加	高位	74
	エゾイソアイナメ(どんこ)		107	73	100	577	347	401	223	1,033	402	188	横ばい	—	363
	マダラ	322	505	1,104	401	156	68	63	22	7	7	6	減少	—	266
	アカムツ		0	5	16	1	3	2	3	1	36	7	増加	—	8
	ユメカサゴ(のどぐろ)		13	10	28	11	32	17	45	11	20	14	横ばい	高位	21
	キチジ(あかじ)	0	6	25	3	117	102	71	119	72	38	27	減少	高位	55
	マアナゴ		120	54	126	36	80	60	59	42	145	20	横ばい	—	80
マトウダイ		55	29	31	17	20	86	76	47	30	35	減少	—	43	
参考	トラザメ(ねこざめ)	1,863	2,286	2,236	2,739	3,271	1,843	3,183	2,697	3,465	1,697	5,925	増加	—	2,528
	テナガダラ(とうじん)		2,769	1,177	501	1,154	3,046	3,588	1,582	2,727	2,190	2,340	横ばい	—	2,082

※1:水準:「茨城県産重要魚種の生態と資源」令和5年3月公表予定の資源水準。—は未評価。
 ※2:エゾイソアイナメ、アカムツ、ユメカサゴ、マアナゴ、マトウダイ、テナガダラは、H25調査から現存量を計算しているため、過去9年平均を記載。

2 ババガレイ（なめた）の資源加入状況

今年度の冬季調査では、小型のババガレイが多く採捕されました。中でも、体長16cm未満（推定3歳未満）に注目すると、本県海域における推定現存尾数はR2年度から増加を続けており、R4年度は、R2年度の3倍を超えました（図1）。このことから、ババガレイの良好な資源加入があったものと推察できます。また、本県におけるR4年のババガレイの漁獲量は統計を開始したH2年以降、3番目に高い数値でした（図2）。水産試験場では、今後も資源動向を注視していきます。（水産試験場 定着性資源部）

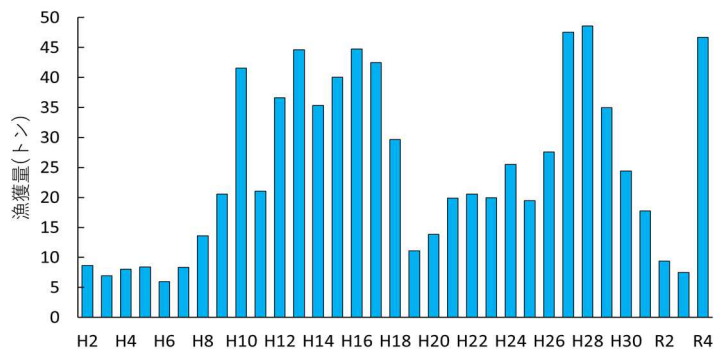
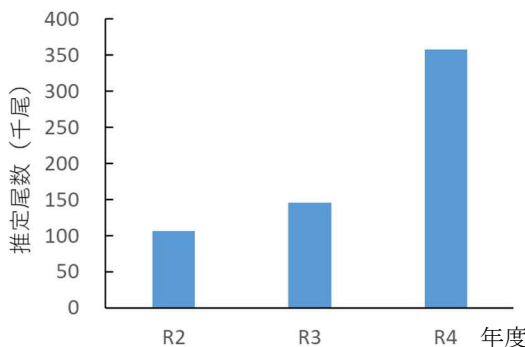


図1 体長16cm未満のババガレイの推定現存尾数

図2 ババガレイの漁獲量(水試システム、属地、1月～12月)

【次回予告】令和5年3月31日発行の水産の窓は「長期漁海況予報会議の結果」を予定しています。